

# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

製 品 名 : **トータルキラークエストラス (防除用医薬部外品)**  
 会 社 名 : シーバイエス株式会社  
 住 所 : 神奈川県横浜市中区山下町22番地 山下町SSKビル／〒231-0023  
 担 当 部 門 : カスタマーテクニカルセンター  
 電 話 番 号 : 045-640-2280  
 F A X 番 号 : 045-640-2216  
 推 奨 用 途 及 び : エアゾールタイプ殺虫剤 (防除用医薬部外品)  
 使 用 上 の 制 限 : 効能又は効果；ゴキブリ、ノミ、イエダニ、ナンキンムシ等の駆除  
 整 理 番 号 : 10033

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

#### 物理化学的危険性

爆発物 : 分類対象外  
 可燃性／引火性ガス : 分類対象外  
 エアゾール : 区分1  
 支燃性／酸化性ガス : 分類対象外  
 高压ガス : 分類対象外  
 引火性液体 : 分類対象外  
 可燃性固体 : 分類対象外  
 自己反応性化学品 : 分類対象外  
 自然発火性液体 : 分類対象外  
 自然発火性固体 : 分類対象外  
 自己発熱性化学品 : 分類対象外  
 水反応可燃性化学品 : 分類対象外  
 酸化性液体 : 分類対象外  
 酸化性固体 : 分類対象外  
 有機過氧化物 : 分類対象外  
 金属腐食性物質 : 分類対象外

#### 健康有害性

急性毒性 (経口) : 分類できない  
 急性毒性 (経皮) : 分類できない  
 急性毒性 (吸入：ガス) : 分類対象外  
 急性毒性 (吸入：蒸気) : 分類できない  
 急性毒性 (吸入：粉じん・ミスト) : 分類できない  
 皮膚腐食性・刺激性 : 分類できない  
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 分類できない  
 呼吸器感作性 : 分類できない  
 皮膚感作性 : 分類できない  
 生殖細胞変異原性 : 分類できない  
 発がん性 : 分類できない  
 生殖毒性 : 分類できない  
 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分3 麻酔作用  
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 分類できない  
 吸引性呼吸器有害性 : 分類できない  
 水生環境有害性 (急性) : 分類できない  
 水生環境有害性 (長期間) : 分類できない  
 オゾン層への有害性 : 分類できない

#### 環境有害性

GHSラベル要素  
絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール  
高圧容器：熱すると破裂のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ

注意書き

【安全対策】  
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。  
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。  
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。  
ミスト/スプレーの吸入を避けること。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
【応急措置】  
吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪いときは、医師に連絡すること。  
【保管】  
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。  
【廃棄】  
内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

人の健康に対する有害な影響

- ・ 吸入した場合、刺激性は弱い。
- ・ 皮膚に触れた場合、弱い刺激がある。
- ・ 目に入った場合、弱い刺激がある。
- ・ 飲み込んだ場合、有害性は低い。

環境への影響

- ・ 大量に流出した場合は、水生生物に対して影響を及ぼす。

物理的及び化学的危険性

- ・ 引火性があり、火気に注意する必要がある。
- ・ ガス抜きをしないまま、高温・高湿条件下に放置したり、火中に投入すると、容器の破裂または爆発のおそれがある。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区分：混合物

成分	CAS番号	官報公示整理番号 化審法番号	濃度又は濃度範囲 (%)
フェノトリン (有効成分)	26002-80-2	3-4219	原液150mL中に1.0g
d-T80-フタルスリン (有効成分)	7696-12-0	9-839	原液150mL中に0.6g
パラフィン系炭化水素	非公開	非公開	非公開
噴射剤			
LPガス (プロパン)	74-98-6	2-3	非公開
LPガス (ブタン)	75-28-5, 106-97-8	2-4	20~30

- ・ 内分泌かく乱作用を有すると疑われる化学物質：環境省「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」（2000年11月版）で示された物質（65種類）を使用しない。
- ・ 化学物質管理促進法（PRT法） 非該当

## 4. 応急措置

- 吸入した場合 : ミスト、スプレーを吸い込んだときは、直ちに新鮮な空気の風通しのよい場所へ移動し、鼻をかんだり、よくうがいをする。何らかの異状を感じたときは、直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 流水でよく洗い流す。衣服や靴などに付いたときは、すみやかに脱ぎ皮膚を流水でよく洗い流す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。
- 目に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗い流す。コンタクトレンズは外す。何らかの異状を感じたときは直ちに医師の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせようとしない。意識のないときは口から何も与えない。ただし、牛乳アレルギーの人には牛乳を与えない。
- その他 : 使用中、目に異状を感じたり、せき込んだり、気分が悪くなったときは、直ちに使用をやめてその場から離れ、洗眼、うがいをする。その後、直ちに医師の処置を受ける。

いずれの場合も、医師への受診時には製品または安全データシートを持参する。

## 5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水、泡、粉末、二酸化炭素などの一般消火剤が使用できる。
- 使ってはならない消火剤 : 情報なし
- 特有の危険有害性 : 高温によるエアゾール缶の破裂に注意する。
- 特有の消火方法 : 周辺火災の場合は速やかに安全な場所に移す。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 保護具（保護メガネ、ゴム手袋、ゴム長靴、保護衣、保護マスク等）を着用する。  
漏出場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項 : 雨水溝、河川、海上などに多量に排出されないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : スクイジーなどを用いてできる限り空容器などに回収する。  
回収した跡、または回収できないものは、多量の水で十分に洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- ・ 用途以外には使用しない。また、定められた方法にしたがって使用する。
  - ・ 他の薬剤・洗浄剤などとは絶対に混ぜたり併用したりしない。
  - ・ 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
  - ・ 炎に向けて使用したり、火気の付近で使用しないこと。
  - ・ 人体に向けて噴射しない。また噴射気体を直接吸入しないこと。
  - ・ 液が皮膚や眼、口、飲食物、食器、子供の玩具、又は飼料等に付着しないように注意する。
  - ・ 観賞魚、小鳥などのペット類にかからないようにすること。特に観賞魚などの魚類にかからないように十分注意すること。
  - ・ 使用後は、手をよく洗う。
  - ・ 使用後は内容液とガスを完全に噴射し終えてから捨てること。
  - ・ 使用後、火の中に入れてはいけないこと。
- 保管
- ・ 直射日光、40℃以上、多湿および凍結のおそれのある場所を避けて保管する。
  - ・ 子供の手の届かないところに保管する。
  - ・ 車には携行しない。
  - ・ 缶が錆びて内容液が漏れたり、破裂するおそれがあるため、水廻りや湿気の多いところには保管しない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：ブタンとして

日本産衛学会（2014年版）：許容濃度  $1200\text{mg}/\text{m}^3$ （500ppm）

設備対策：ミストや蒸気が滞留しないように局所換気装置または全体換気装置を設置する。

取扱い場所の近くに洗眼、身体洗浄のための設備を設ける。

## 保護具

呼吸器用の保護具：保護マスク  
 手の保護：ゴム手袋  
 目の保護：保護メガネ  
 皮膚及び身体の保護具：ゴム長靴、保護衣

## 9. 物理的及び化学的性質

（噴射剤を除く内容液）

外観（形状、色）：微黄色透明液体  
 臭い：特異臭  
 pH：データなし  
 比重：データなし  
 粘度：データなし  
 溶解度：水に不溶。エーテル・トルエン・MEKに可溶  
 融点・凝固点：データなし  
 沸点：データなし  
 引火点：98℃  
 燃焼又は爆発範囲：データなし  
 蒸気圧：データなし  
 蒸気密度：データなし  
 水分配係数：データなし  
 自然発火温度：データなし  
 分解温度：データなし  
 蒸発温度：データなし  
 有効成分含有率  
 フェノトリン：原液150mL中に1.0g  
 d-T80-フタルスリン：原液150mL中に0.6g

（エアゾール）

圧力：0.37MPa

（注）数値はいずれも代表値で表示

## 10. 安定性及び反応性

反応性：通常の実取扱い条件においては危険な反応を起こす恐れはない。  
 エアゾール缶は酸性物質との接触により腐食する。  
 化学的安定性：通常の実取扱い条件（屋内、常温）においては安定である。  
 危険有害反応可能性：データなし  
 避けるべき条件：直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、酸性雰囲気下  
 混触危険物質：酸性物質  
 危険有害な分解生成物：データなし

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）：データ不足のため分類できない。  
 急性毒性（経皮）：データ不足のため分類できない。  
 急性毒性（吸入：ガス）：分類対象外  
 急性毒性（吸入：蒸気）：データ不足のため分類できない。  
 急性毒性（吸入：粉じん・ミスト）：データ不足のため分類できない。  
 皮膚腐食性・刺激性：データ不足のため分類できない。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	: データ不足のため分類できない。
呼吸器感作性	: データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できない。
発がん性	: データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有するため、区分3とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: データ不足のため分類できない。
吸引性呼吸器有害性	: データ不足のため分類できない。
その他の情報	: データなし

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性（急性）	: データ不足のため分類できない。
水生環境有害性（長期間）	: データ不足のため分類できない。
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし
その他の情報	: データなし

## 1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 下水道以外の河川等、公共水域への排出は絶対に避ける。 廃棄処理するときは、保護具を着用する。 原則、使い切ってからガス抜きを行い廃棄する。 少量の場合も、そのままの状態では廃棄せず、残留ガスを完全に抜いた上で、関係法令の定めるところに従って処理する。 まとまった数量の本製品を廃棄する場合には、ガス抜きを行い、内容物と分別した上で、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者にて委託処理をする。
汚染容器、包装	: ガス抜きを行い分別した容器は、水で十分に洗い適切に処理する。

内容物／容器の廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

## 1 4. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	: 1950
品名（国連輸送名）	: エアゾール
国連分類	: クラス2. 1（高圧ガス、引火性、非毒性）
容器等級	: 該当しない
海洋汚染物質	: 該当しない
MARPOL73/78 及びIBCコード	: ばら積み輸送されない製品のため対象外。
HSコード	: 3808. 91
国内法規制	: 次の輸送に関する国内法規に該当するので、定められている輸送方法に従う。 消防法 高圧ガス保安法 危険物船舶運送及び貯蔵規則

輸送の特定の安全対策及び条件：

- ・ 輸送前に容器の破損、腐食、漏れなどが無いことを確認する。
- ・ 荷役作業は丁寧に行い、容器を破損しないように取り扱う。
- ・ 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ・ 直射日光、40℃以上、多湿、凍結条件下、開放状態での輸送は避ける。
- ・ 水濡れを避ける。

## 15. 適用法令

毒物及び劇物取締法	:	該当しない
化学物質管理促進法(PRTTR法)	:	該当しない
労働安全衛生法/通知対象物	:	第482号     ブタン   (20~30%)
表示物質	:	第482号     ブタン   (20~30%)
有機則	:	該当しない
特化則	:	該当しない
消防法	:	危険物第四類第三石油類非水溶性 危険等級Ⅲ
高圧ガス保安法	:	エアゾール製品
薬機法	:	防除用医薬部外品
危険物船舶運送及び貯蔵規則	:	高圧ガス エアゾール
海洋汚染防止法	:	ばら積み輸送されない製品のため対象外。
水質汚濁防止法/水素イオン濃度	:	該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	:	産業廃棄物

## 16. その他の情報

問い合わせ先	:	シーバイエス株式会社 カスタマーテクニカルセンター 電話番号：045-640-2280/FAX番号：045-640-2216
改訂の記録	:	作成   ; 2006年11月01日 改訂   ; 2010年03月15日 2010年04月01日 (社名変更) 2010年12月15日 (JIS Z 7250:2005に書式変更) 2012年10月22日 (社名変更) 2013年01月01日 (社名変更) 2014年07月01日 (社名変更) 2016年06月01日 (記載事項の変更、JIS Z 7253:2012に書式変更)

引用文献	:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品安全データシートの作成指針(改訂版)、日本化学工業協会 (2001)</li> <li>・ GHS対応ガイドライン、(財)日本化学工業協会 (2012)</li> <li>・ JIS Z 7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法、日本規格協会</li> <li>・ JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)、日本規格協会</li> <li>・ 労働安全衛生関係法令集、労務行政研究所</li> <li>・ 16313の化学商品、化学工業日報社</li> <li>・ 化学品安全管理データブック、化学工業日報社</li> <li>・ 公害防止の技術と法規(水質編)、産業公害防止協会</li> <li>・ 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善促進の進め方、日本規格協会</li> <li>・ GHS分類結果データベース、製品評価技術基盤機構HP</li> <li>・ GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報、厚生労働省職場のあんぜんサイトHP</li> </ul>
------	---	---

※記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データなどに基づいて作成しており、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の危険・有害性があり得るため、ご使用の際には用途・用法に適した安全対策を実施の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。

以上